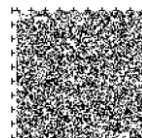


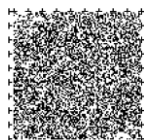
第 4 章 施策の展開

- 1 体系図
- 2 各施策



1 体系図

将来像	基本目標
生涯にわたって誰もがスポーツに親しみ生き生きと過ごせるまち くスポーツを通じた共生社会の充実く	1 スポーツ活動の推進 成果指標：週1回以上スポーツをする市民の割合 現状値（R4年度） 目標値（R12年度） 68.9% ➡ 70%
	2 スポーツ環境の充実 成果指標：市スポーツ施設利用者数（学校施設開放含む） 現状値（R4年度） 目標値（R12年度） 104.3万人 ➡ 130万人
	3 スポーツ資源を活用した にぎわいの創出・交流の促進 成果指標：スポーツイベント等における交流人口 現状値（R4年度） 目標値（R12年度） 41.4万人 ➡ 50万人



基本施策	主な取組
1-1 スポーツをはじめる機会の創出	● 多様なスポーツイベントの開催 ● 健康の維持増進のための取組の実施 ● トップスポーツチーム等と連携した学校訪問等の実施
1-2 地域における子どものスポーツ 機会の確保と体力向上	● 子どもの体力向上事業の実施 ● 地域におけるスポーツ大会の実施
1-3 ライフステージに応じたスポーツ 活動の推進	● 幅広い年代に向けた運動プログラムの実施 ● シニアスポーツの振興 ● ニュースポーツ等の普及・啓発
1-4 障害の有無にかかわらない スポーツ振興	● 障害当事者の運動機会の創出・定着に向けた取組の実施 ● パラスポーツの普及・啓発 ● デフリンピックを契機とした取組の推進
1-5 スポーツの支え手の育成・支援	● 地域スポーツを支える団体等の育成・支援 ● スポーツボランティアの育成と活動の促進
2-1 スポーツ施設の整備	● スポーツ施設の維持保全・計画的な改修
2-2 スポーツ施設の効率的かつ 効果的な維持管理・運営	● 施設管理における効率的かつ効果的な維持管理・運営の検討 ● スポーツ施設の再配置の検討
2-3 スポーツに取り組むための場の 確保・充実	● スポーツ施設を活用した地域スポーツの場の確保と支援 ● 東京都や民間のスポーツ施設、学校施設等の活用
2-4 地域スポーツ指導者の 育成・支援	● 指導者育成に向けた取組の充実 ● スポーツ指導員派遣事業の充実 ● 部活動地域連携・地域移行への対応
2-5 スポーツに関する情報発信の 充実	● 市ホームページ等でのスポーツ情報の充実 ● SNS 等を活用した情報発信の充実 ● スポーツや健康に関する普及啓発
3-1 地域ゆかりのアスリートの支援	● 調布市ゆかりのアスリートの応援 ● 次代を担うスポーツ選手の発掘・支援
3-2 トップスポーツチーム等との連携に よるスポーツ振興等の推進	● トップアスリートとの交流機会の創出 ● トップスポーツの観戦・応援機会の創出 ● トップスポーツチーム等とのパートナーシップの強化
3-3 多摩地域の一大スポーツ拠点 を活用したスポーツ振興等の推進	● 大規模スポーツイベント等の開催支援 ● 大規模スポーツイベント等と連携した地域振興の促進
3-4 大規模スポーツイベントの レガシーの活用	● 大規模スポーツイベントを契機とした多様な主体とのパートナーシップの活用・発展 ● 他分野間連携の推進 ● パラリンピックレガシーである「パラハートちようふ」の取組推進



2 各施策

基本目標1 スポーツ活動の推進

基本施策1-1 スポーツをはじめる機会の創出

市民がスポーツをはじめる機会を創出していくため、誰もが参加可能なスポーツイベントを開催するほか、多様な主体の取組への支援を通じて、市民がライフスタイルに応じて気軽にスポーツができる機会を提供していきます。

また、トップスポーツチーム等と連携し、トップアスリートの学校訪問やスポーツイベントでの市民交流を通じて、スポーツをはじめるきっかけを提供します。

取組 多様なスポーツイベントの開催

市民体育祭や市民スポーツまつり、市民駅伝競走大会、パラスポーツ体験、スポーツ施設でのスポーツ教室等、年齢や性別を問わず、誰もが気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめる機会の充実を図ります。

また、総合体育館の指定管理者である調布市スポーツ協会や、大町スポーツ施設を拠点として活動する総合型地域スポーツクラブの調和SHC倶楽部が実施する様々なスポーツイベントや教室等について、実施主体との連携・支援を行うことで、市民のライフスタイルに応じて気軽にスポーツをはじめる機会の提供を行います。



市民駅伝競走大会

<主な事業>

- 誰もが参加・体験できるスポーツイベントの開催
(市民体育祭、市民スポーツまつり、市民駅伝競走大会など)
- 参加・体験型パラスポーツイベントの開催
(パラスポーツ体験会、東京都市町村ボッチャ大会など)
- 市立スポーツ施設を活用したスポーツイベント等の展開

取組 健康の維持増進のための取組の実施

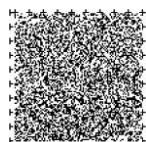
市内各所で実施するリフレッシュ体操スクールなどにより、市民がライフステージに応じて身近な場所で気軽に体を動かす機会を提供します。また、健康に関する講座等の実施を通して、知識の獲得や意欲の向上を促し、市民の健康増進を支援します。



リフレッシュ体操スクール

<主な事業>

- リフレッシュ体操スクールの実施
- スポーツ協会セブンプログラムの実施
- 健康に関する講座（今から始める健康づくり教室）等の実施



取組

トップスポーツチーム等と連携した学校訪問等の実施

トップスポーツチーム等との連携・協働による学校訪問や体験事業等の実施、またトップスポーツチームによる地域貢献活動を支援することで、子どもたちをはじめとした市民とトップアスリートとの交流を促進し、スポーツへの興味・関心を高め、スポーツに参加するきっかけづくりを行います。



FC東京
子どもサッカー体験教室



東芝レイブルパス東京
学校訪問



読売巨人軍による学校訪問



NTT 東日本バドミントン部
地域感謝祭

<主な事業>

- トップスポーツチーム等との連携による学校訪問等の実施
- トップスポーツチームによる地域貢献活動等への支援

コラム：CHOFU ドリームプロジェクト（調布市スポーツ協会事業）

CHOFUドリームプロジェクトは、様々な競技の誰もが知るトップアスリートをゲストに招き、競技への興味、関心を高め、スポーツに接する機会を創出することを目的として実施する教室型のプロジェクトです。

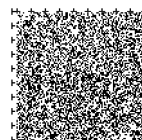
令和4年度は、元プロ野球選手の岩隈久志氏を招き、子ども野球教室を開催し、231人が参加しました。また、令和5年度は、水谷隼氏による卓球ショーやトップ選手による卓球教室を開催し、約100人が参加しました。



子ども野球教室



卓球教室



基本施策 1-2 地域における子どものスポーツ機会の確保と体力向上

トップスポーツチームやアスリート等、様々な主体と連携し、スポーツへの関心喚起、運動するきっかけづくり、運動習慣の定着、体力や運動能力の向上に向けた取組等を実施することで、身近な地域で子どもがスポーツを楽しめる環境づくりを推進します。

取組 子どもの体力向上事業の実施

教育委員会や調布市スポーツ協会と連携し、子どもたちが運動、スポーツの多様な楽しみ方を実感できる取組や、運動習慣の定着化につながる取組を進めます。

トップスポーツチームやアスリート等と連携し、スポーツと楽しく触れ合う機会の創出に取り組みます。

また、ジュニア世代の育成事業を通して、子どものスポーツの普及・育成、競技力の向上を図ります。



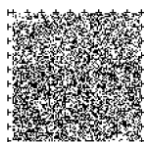
ジュニア陸上体験教室



あおあかドリル

<主な事業>

- ゆめおり陸上クラブ出前授業
- ジュニア陸上体験教室
- トップアスリート派遣事業
- あおあかドリルの配布
- FC東京小学校対象サッカー教室
- ジュニア育成地域推進事業（調布市スポーツ協会事業）



取組**地域におけるスポーツ大会の実施**

児童館や学童クラブ、健全育成など、様々な場所で地域のスポーツ大会を実施又は支援することで、学校の授業以外でも、身近な地域で子どもたちが体を動かし、スポーツを楽しめる環境づくりに取り組みます。



小学生ドッジビー大会



健全育成ソフトボール大会

<主な事業>

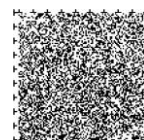
- 小学生ドッジビー大会の開催
- 児童館・学童クラブでのスポーツ大会の開催
- 健全育成ソフトボール大会の開催
- スポーツ協会加盟団体主催大会への支援

コラム：調布市小学生タグラグビー大会（調布市民体育祭ラグビーフットボール競技）

ラグビーワールドカップ2019、東京2020大会の7人制ラグビーの開催に向け、青少年の健全育成の推進及びラグビー競技に対する地域社会の理解を醸成することを目的として、平成28（2016）年度から調布市小学生タグラグビー大会として実施してきました。令和4年度からは調布市民体育祭として、市内小学校から多くのチームが出場し、タグラグビーによる交流を図っています。令和5（2023）年度においては、市内小学校から23チーム・約180人の児童が出場しました。



市民体育祭ラグビーフットボール競技(タグラグビーの部)



基本施策 1-3 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

より多くの市民が生涯を通してスポーツに親しむことができるよう、それぞれの年齢や体力等、また各世代のニーズに合わせたスポーツへの参加機会の充実を図り、誰もがスポーツに親しめる機会の創出に取り組みます。

取組 幅広い年代に向けた運動プログラムの実施

子どもから高齢者まで、幅広い年代層を対象としたスポーツ教室やイベントなどの運動プログラムを展開し、市民が生涯を通じてスポーツに親しむ機会を提供するとともに、調布市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブである調和S H C 倶楽部の取組を支援します。

<主な事業>

- スポーツ協会セブンプログラムの実施
- リフレッシュ体操スクールの実施
- 誰もが参加・体験できるスポーツイベント・教室の開催

取組 シニアスポーツの振興

高齢者の健康維持・増進や地域での仲間づくりを支えていくため、高齢者がスポーツに親しみ、世代を越えてスポーツを楽しむ機会を提供します。



高齢者体操教室

<主な事業>

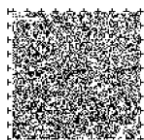
- 高齢者体操教室
- シニアスポーツ振興事業（調布市スポーツ協会事業）
- 総合型地域スポーツクラブ（調和S H C 倶楽部）におけるシニアスポーツ振興事業の支援

コラム：若者・働く世代・子育て世代のスポーツ参加

若者・働く世代・子育て世代のスポーツ参加機会の充実に向けてスポーツ実施率が比較的低い若い年代層に向け、スポーツ活動に参加しやすい機会の充実を図ります。

<主な取組>

- SNSなどでのスポーツ情報発信の充実によるスポーツへの関心喚起
- 親子参加型のスポーツの場の提供
- スポーツ大会の開催支援
- 気軽にできるウォーキング・ランニングなどの大会開催等の支援
- 調布市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブによる取組の支援
- 身近な場所でのスポーツ観戦機会の提供
- 若者へのボランティア機会の提供
- 全国大会や国際大会に出場する選手への支援
- 「調布市応援アスリート」制度による地域ゆかりのアスリートの応援



取組 ニュースポーツ等の普及・啓発

スポーツ経験や年齢，性別等にかかわらず親しめるニュースポーツの普及・啓発に取り組むとともに，これらの取組を通じて，世代を超えた市民の交流を促進します。

また，東京 2020 大会を契機として注目されたアーバンスポーツに関する取組についても検討します。



ニュースポーツ交流会

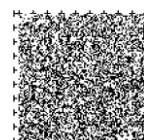
<主な事業>

- ニュースポーツ交流会
- ニュースポーツの普及・啓発に向けた取組

コラム：アーバンスポーツ

「アーバンスポーツ」とは，BMX，スケートボード，パルクール，インラインスケート，ブレイクダンス等の都市型スポーツのことを指します。

日本では広島県において，「FISE Hiroshima 2018」というアーバンスポーツの世界大会が平成 30（2018）年に開催されました。同大会の開催を機にアーバンスポーツ普及促進と東京 2020 大会の機運醸成という二つの目標を掲げた「一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会」が発足し，アーバンスポーツの価値向上，青少年の健全育成や国民の健康増進の取組が進められています。



基本施策 1-4 障害の有無にかかわらずスポーツ振興

障害の特性や障害当事者のニーズ等に対応し、障害のある方が身近な場所でスポーツに取り組める環境の充実を図ります。また、パラスポーツの体験や、小・中学校でのパラリンピック教育事業などを通して、パラスポーツの普及・啓発や障害理解の促進を図ります。

令和7（2025）年には東京でデフリンピックが開催され、市内でもバドミントン競技が実施される予定であることから、大会を契機とした取組を推進します。

取組 障害当事者の運動機会の創出・定着に向けた 取組の実施

スポーツ・福祉・医療分野などの関係者との連携を図り、障害の特性や障害当事者のニーズ等を踏まえて障害当事者の運動機会の創出・定着に取り組めます。



障害者余暇活動支援事業
（ほりで〜ぶらん）

<主な事業>

- 「障害者スポーツの振興における協議体」を活用した取組の推進
- 障害者施設への指導者派遣事業
- 指定管理者における障害者の利用促進に向けた取組
- 障害児（者）フットサル事業（あおぞらサッカースクール）
- 障害者余暇活動支援事業（ほりで〜ぶらん）
- 「遊 ing」，「杉の木青年教室」など、障害のある方の社会体験活動への支援

コラム：障害者スポーツの振興における協議体

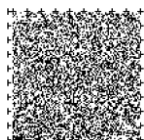
「障害者スポーツの振興」という目的のもと、東京都との連携により、スポーツ・福祉・医療分野の関係団体による協議体を令和元年度に設置しました。「平日のスポーツ活動の充実」，「余暇のスポーツ活動の充実」，「協議体参加団体のための講習会」を3つの柱とし、各団体の現状や課題、障害者スポーツ振興のためにできること等を持ち寄り、連携の可能性を見出し、課題解決に向けた話し合いや障害当事者の運動機会創出・定着に向けた取組を行っています。



協議体

<協議体参加団体>（令和6年3月現在）

- | | |
|---|----------------|
| ● 調布市スポーツ協会 | ● 調布市社会福祉事業団 |
| ● 調布市スポーツ推進委員会 | ● 調布市福祉作業所等連絡会 |
| ● 調和S H C 倶楽部 | ● 東京都理学療法士協会 |
| ● 調布市社会福祉協議会 | ● 東京都障害者スポーツ協会 |
| ● 東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部パラスポーツ課
（事務局）調布市スポーツ振興課・障害福祉課 | |



取組 パラスポーツの普及・啓発

市民がパラスポーツを体験し、親しむ機会を拡充することで、パラスポーツの普及・啓発を図ります。また、日本ブラインドサッカー協会等と連携し、子どもたちがパラスポーツに触れる機会を提供することで、障害理解の促進につなげ、共生社会の充実を図ります。



パラスポーツ体験プログラム
「あすチャレ！」



ブラインドサッカー®
体験型教育プログラム「スポ育®」

<主な事業>

- パラスポーツ体験イベントの実施
- 子どもたちの障害理解促進に向けた取組の実施（ブラインドサッカー®体験型教育プログラム「スポ育®」、パラスポーツ体験プログラム「あすチャレ！」など）
- 東京都市町村ボッチャ大会の継続開催

取組 デフリンピックを契機とした取組の推進

令和7（2025）年のデフリンピック東京開催を契機として、大会に向けた機運醸成はもとより、ユニバーサルコミュニケーション³²の促進や、互いの違いを認め合い、尊重し合う共生社会の充実に向けた取組を一層推進します。

<主な事業>

- 大会に向けた機運醸成（デフスポーツ体験、デフリンピアンとの交流など）
- 障害理解の促進（手話の啓発など）
- 東京都等と連携した円滑な大会開催のための支援

コラム：デフリンピックとは

国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催するろう者による国際スポーツ大会。（デフ(Deaf)は英語で「耳がきこえない」という意味）

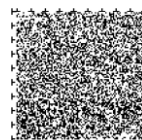
東京 2025 デフリンピック（略称、正式名称は「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025」）は 100 周年の記念すべき大会であり、日本では初開催となる。市内では武蔵野の森総合スポーツプラザにてバドミントン競技が開催予定。



<東京 2025 デフリンピックの概要>

日 程：2025 年 11 月 15 日～26 日（9 日間）
競 技：21 競技（陸上、バドミントン、バスケットボールなど）
会 場：都内 16 会場（サッカーは福島県、自転車は静岡県）
調布市では武蔵野の森総合スポーツプラザにてバドミントン競技が開催予定
出 場 選 手：70～80 か国・地域、約 3,000 人

32 日常生活において、年齢や障害の有無、母国語の違い等に関わらず、必要な情報がより多くの方に届き、また意思疎通が可能となる環境としていくこと。



基本施策 1－5 スポーツの支え手の育成・支援

地域スポーツの支え手であるスポーツ団体等の事業や組織力の強化を支援するとともに、相互に連携し、市民の健康増進及び体力向上等を目的とした市民スポーツの振興を図ります。

また、スポーツを「支える」担い手であるスポーツボランティアの育成に取り組むとともに、活動の場の拡充を図ることで、ボランティア活動を促進します。

調布市スポーツ協会加盟団体	スポーツ協会加盟団体（競技連盟・協会など）	33 団体
	総会員数	9,900 人
	協会・連盟に所属する団体数（チームなど）	438 団体
調布市スポーツ少年団	団体数	4 団体
	総会員数	159 人

図表 46 調布市スポーツ協会加盟団体・調布市スポーツ少年団（令和6年3月現在）

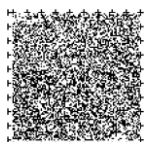
取組 地域スポーツを支える団体等の育成・支援

地域スポーツの担い手である調布市スポーツ推進委員会や調布市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ（調和SHC倶楽部）の事業や組織力の強化を支援します。調布市スポーツ協会への支援を通して、協会に加盟するスポーツ団体を育成し、地域スポーツの裾野の拡大を図ります。

また、大会で優秀な成績を残したアスリートの顕彰だけでなく、スポーツ振興を支援している市民や団体の活動も称えていきます。

<主な事業>

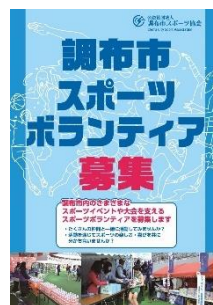
- 調布市スポーツ協会への支援（加盟団体、スポーツ団体への支援含む）
- 調布市スポーツ推進委員会への支援
- 総合型地域スポーツクラブ（調和SHC倶楽部）への支援
- スポーツを支える市民・団体の顕彰等



取組 スポーツボランティアの育成と活動の促進

市民スポーツまつりや市民駅伝競走大会の運営など、市のスポーツイベントは、多くのスポーツボランティアの支援により成り立っています。

調布市スポーツ協会と連携し、スポーツボランティアの人材育成やスポーツイベント等の運営を支える機会の創出に取り組むことでボランティア活動を促進し、市民のスポーツボランティアへの参加意欲を高めます。



スポーツボランティア募集チラシ

<主な事業>

- スポーツボランティアの育成
- スポーツボランティアの活動促進

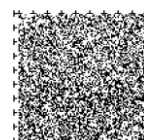
コラム：調和SHC倶楽部

調和SHC倶楽部とは、調布市立調和小学校地区とその周辺の地域の方々を対象とした市内初の「総合型地域スポーツ・文化クラブ」です。平成14（2002）年9月に設立され、平成15（2003）年11月には東京都より「特定非営利活動法人（NPO）」の認証を取得しました。SHCのSは「Sports（スポーツ）」、Hは「Health（健康）」、Cは「Culture（文化）」の頭文字。現在は1,000人を超える会員が在籍し、子どもからお年寄りまで、みんなの笑顔が広がる魅力あるクラブを目指して日々活動しています。

老若男女誰でも参加できるサークル・教室が、数多く用意されているのがクラブの特徴であり、中でも高齢者に対応できるプログラムに力を入れていて、多くの会員が参加しています。



令和5年11月26日
パラスポーツ・ボッチャ
調布市交流会



基本目標2 スポーツ環境の充実

基本施策2-1 スポーツ施設の整備

スポーツ施設をより効率的かつ効果的に維持管理・運営していくために、調布市公共施設マネジメント計画³³や各施設の利用実態、老朽化の状況などを踏まえ、維持保全や改修工事を計画的に実施するとともに、市民ニーズを踏まえた安全で利便性の高いスポーツ施設の整備に努めます。

取組 スポーツ施設の維持保全・計画的な改修

利用者の安全・安心を第一に、スポーツ施設の状況や利用者ニーズなどを踏まえながら、順次整備を行いつつ、調布市公共施設マネジメント計画に基づき、計画的に維持保全や改修工事を進めることにより、安全で利便性の高いスポーツ施設の整備を図ります。

<主な事業>

- スポーツ施設の維持保全・改修
- スポーツ施設の利便性向上に向けた取組
- スポーツ施設における環境負荷低減に向けた取組

コラム：グリーンダスト舗装

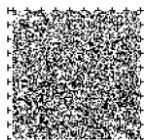
グリーンダスト舗装とは、輝緑安山岩³⁴などを破碎したグリーンダストを使った土系舗装です。透水性が高くグラウンドの水はけが良くなるため、降雨による影響を受けにくくなります。また、乾燥した場合においても、グラウンドの埃が立ちにくいといった効果があります。市では、調布基地跡地運動広場の一部グラウンドに導入し、利用環境の向上を図っています。



グリーンダスト舗装をした
グラウンド
(調布基地跡地運動広場)

33 市の公共施設の多くが、建設から30年経過に伴って老朽化が進行しており、今後、一斉に更新（建替）が必要になることが見込まれる。市は、質の高い市民サービスを持続的に提供できる市政経営の確立を目指して、適切な維持保全や更新のほか、費用の平準化などの取組を推進するため、施設における今後の在り方・方向を示すために策定したもの。

34 火成岩（岩石）の一種。建築や土木工事などに用いられており、深緑色（ダークグリーン）の安山岩がグリーンダスト舗装などで使われる。



コラム：ゼロカーボンシティに向けて

地球規模で発生している熱波や集中豪雨など、これまで経験したことのない自然災害や異常気象が深刻化する中、気候変動への対策は喫緊の課題です。

令和3（2021）年4月、市と市議会は、脱炭素社会の実現に向けて「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」にする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。持続可能性をテーマにカーボンマイナス大会を実現した東京2020大会を契機として、市は、市民や事業者と協働して市域全体で地球温暖化対策の取組を推進することにより、「2050年ゼロカーボンシティ」に向けた取組を進めています。

スポーツ施設においても、照明のLED化³⁵を図るなど、環境負荷の低減に向けた取組を推進していきます。

コラム：スポーツ施設における暑熱対策

近年の猛暑傾向を踏まえ、各スポーツ施設に、デジタル温度計を設置し、注意喚起を行っているほか、特に夏場の利用環境を向上する観点から、屋内施設への空調設備の設置や、屋外の一部グラウンドや市民野球場へのミストシャワー³⁶の設置等により、暑熱対策を図るなど、安全で快適なスポーツ環境の整備に取り組んでいます。



スポーツ施設におけるミストシャワーの設置（左：市民野球場、右：調布基地跡地運動広場）

コラム：スポーツ施設における安全・安心の確保に向けた取組（AEDの設置）

安心してスポーツ活動を行うための環境を整備し、スポーツによって生じる事故・外傷・障害等の防止や軽減を図ることが必要です。市は、スポーツ施設で不測の事態が生じた際に、速やかに対応できるよう、各市立スポーツ施設へAED（自動体外式除細動器）を設置しています。なお、AED設置場所は市ホームページでお知らせしているほか、利用者に分かりやすいよう、現地にはのぼり旗を設置しています。

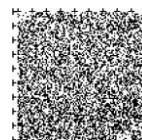


< AEDを設置している市立スポーツ施設 >

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| ● 総合体育館 | ● 市民深大寺テニスコート |
| ● 市民西調布体育館 | ● 市民緑ヶ丘テニスコート |
| ● 市民西町野球場・市民西町少年野球場・市民西町サッカー場 | ● 市民大町スポーツ施設 |
| ● 市民野球場・市民プール・市民多摩川テニスコート | ● 調布基地跡地運動広場 |
| | ● 多摩川児童公園内運動施設 |

35 照明LED化により、消費電力やCO₂の排出削減など、環境負荷の低減効果がある。市のスポーツ施設では、既に総合体育館、西調布体育館、大町スポーツ施設などの屋内スポーツ施設において照明LED化を実施しているが、今後は、屋外スポーツ施設の夜間照明のLED化を順次進めていく。

36 熱中症対策として、霧状の水を散布する装置のこと。特に夏場の利用環境を向上する観点から、屋外施設である調布基地跡地運動広場の一部グラウンド及び市民野球場のダグアウトベンチ上部に設置している。



基本施策 2-2 スポーツ施設の効率的かつ効果的な維持管理・運営

多様化するスポーツ活動に対するニーズや各スポーツ施設を取り巻く課題を踏まえ、施設管理におけるより効率的かつ効果的な維持管理・運営の検討に取り組みます。あわせて、中央自動車道の耐震補強工事等に伴う西調布体育館の代替機能の検討・確保や市民プールに関する今後の対応の検討など、スポーツ施設の再配置の検討に取り組みます。

取組 施設管理における効率的かつ効果的な維持管理・運営の検討

行政のデジタル化の潮流を踏まえながら、スポーツ施設の利便性向上に向け、キャッシュレス決済の導入や施設利用予約システム更新を含む利用環境向上の取組を検討します。あわせて、市民にとってより身近で利用しやすい施設となるよう、SNS等を活用した情報発信に取り組みます。

<主な事業>

- デジタル技術の活用等によるスポーツ施設の利便性向上の検討

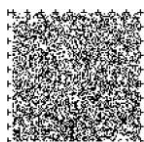
取組 スポーツ施設の再配置の検討

中日本高速道路株式会社による中央自動車道の耐震補強工事等に伴い、高架下に設置している公共施設について、一時的な撤去や閉鎖などの影響を受けることとなり、移転等の取組が必要になっています。スポーツ施設としては、中央自動車道高架下に位置する西調布体育館について、周辺の公共施設用地を活用した代替施設の建設による機能移転等を視野に、今後に向けた検討を行ってきました。引き続き、中央自動車道の耐震補強工事等に伴う影響を把握する中で、その対応方法を含めて、利用団体や地域の皆様に適時適切な情報提供を行いつつ、西調布体育館の移転・更新に向けて、利用団体の皆様のスポーツ活動が継続できるよう計画的に取り組みます。

また、設置から 50 年以上が経過している市民プールについては、施設・設備の老朽化や運営上の課題を踏まえ、今後の対応について多角的に検討します。

<主な事業>

- 西調布体育館の代替機能の検討・確保
- 市民プールの今後の対応の検討



コラム：調布市民西調布体育館の概要

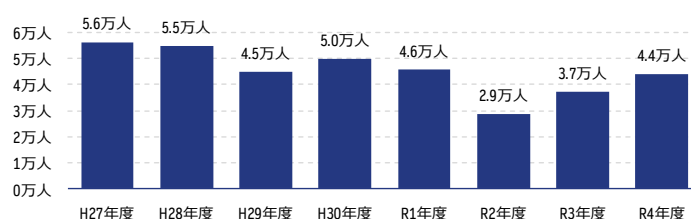
西調布体育館は、高速道路高架下にある屋内スポーツ施設です。体育室が2室、ミーティングルームが1室あり、様々な種目で利用できますが、特に剣道・柔道・空手道・合気道・なぎなたといった武道系の競技を中心に利用されています。



西調布体育館

<施設概要>

所在地 東京都調布市上石原2丁目4番地1
 設置年月 昭和59年3月
 アクセス 京王線西調布駅から南西へ徒歩約10分
 利用種目 卓球、柔道、剣道、合気道、なぎなた、ダンス・体操等の練習・試合等(団体使用に限る)で使用可
 ※バスケットボール、バレーボール、バドミントン等は使用不可



西調布体育館の利用者数の推移

コラム：市民プールの概要

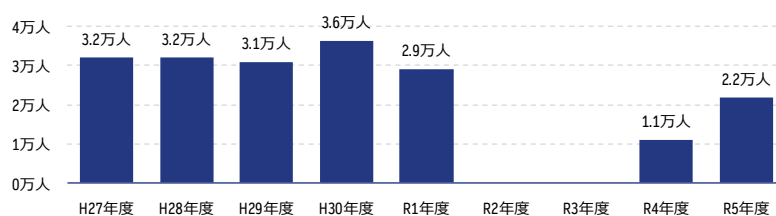
市民プールは、屋外プール施設として、夏季の開催期間中は大変多くの利用者でにぎわっています。一方、設置後50年以上が経過し、施設・設備の老朽化が課題となっているほか、近年では猛暑の中、運営上の課題が生じています。



市民プール

<施設概要>

所在地 東京都調布市染地2丁目43番地1
 設置年月 昭和46年3月
 開設期間 毎年7月10日～9月10日 午前9時～午後6時30分
 アクセス バス調布駅南口広場発多摩川住宅西行きバス市民プール下車
 徒歩京王多摩川駅より東へ徒歩15分
 徒歩調布駅または布田駅から南へ徒歩20分



市民プールの利用者数の推移³⁷

37 R2, R3は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。



基本施策 2-3 スポーツに取り組むための場の確保・充実

市民が身近な場でスポーツに取り組めるよう、総合体育館をはじめとした市立スポーツ施設で実施されるスポーツ教室等のプログラムを支援します。

また、公有地や学校施設の活用をはじめ、東京都や民間事業者との連携、市内大学施設の活用を進め、スポーツができる場の確保・充実を図ります。

取組 スポーツ施設を活用した地域スポーツの場の確保と支援

総合体育館の指定管理者である調布市スポーツ協会や、大町スポーツ施設を拠点として活動する総合型地域スポーツクラブの調和SHC倶楽部が実施する様々なスポーツ振興のためのイベントやスポーツ教室等について、実施主体と連携を図り、イベント等への支援を行うことで、市民のライフスタイルに応じて気軽にスポーツをはじめの機会を提供します。

<主な事業>

- 市立スポーツ施設を活用したスポーツイベント等への支援

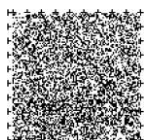
取組 東京都や民間のスポーツ施設、学校施設等の活用

市内にある味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザといった都立施設について、東京都や指定管理者等と連携し、スポーツイベントの実施などを通じた市民利用を促進します。また、民間事業者や大学等と連携し、市民がスポーツに取り組める場の確保に努めます。

あわせて、調布中学校の弓道場やテニスコート、調和小学校の屋内プールを学校教育活動使用時以外に市民開放するほか、社会教育及び社会体育の振興、普及を進めながら健康の増進を図ることを目的に学校施設の開放を行います。

<主な事業>

- 都立スポーツ施設の活用
- 民間・大学スポーツ施設の活用（ミズノフットサルプラザ、電気通信大学など）
- 学校開放事業の実施



コラム：スポーツ協会セブンプログラム

調布市スポーツ協会では、市民スポーツの振興に向け、7つのプログラムを柱とした「スポーツ協会セブンプログラム」を展開し、指定管理する総合体育館において、市民が身近な場所でスポーツに取り組める場の提供・充実を図っています。

<プログラムの内容>

1 健康増進プログラム

運動する機会がない方を対象に、無理なく日常的に参加できるプログラム（バランスボールエクササイズ、ナイトヨガスクール、ヘルシーウォーキング等）



健康増進プログラム

2 ジュニアスポーツプログラム

気軽にスポーツに参加できる機会の提供、自分に合ったスポーツの発見、きっかけづくりとして、体力向上・心身の発達を促し、スポーツへの関心・興味を高めるプログラム（Kidsチャレンジ体操スクール、跳び箱・鉄棒チャレンジスクール、ジュニア卓球スクール等）



ジュニアスポーツプログラム

3 スキルアッププログラム

基礎体力から継続的な運動効果による体力の維持管理、技術向上を目的に取り組むプログラム。また、各競技会の実施によりスポーツ水準の向上を図り、スポーツの普及と選手の発掘及び育成を推進している。（バレーボールスクール、バドミントンスクール、卓球スクール、スイミングスクール等）



スキルアッププログラム

4 障害者プログラム

障害者が定期的に個人利用できるよう、障害の状況に応じた内容や用具等を工夫するなど、施設のバリアフリー整備及びスタッフの心のバリアフリーを進め、身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりを実施（転倒予防のための体操、市内障害者グループへの施設貸出等）



障害者プログラム

5 指導者養成プログラム

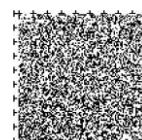
様々なニーズや能力に応じたスポーツライフの充実を図るため、資質や能力の高い指導者の育成を行う。市民一人一人のニーズに的確に応えることができる指導力を備えたスポーツ指導者の養成事業を実施（公認指導者更新講習会、普通・上級救命講習会、熱中症予防講習会等）

6 インフォメーションプログラム

総合体育館新着情報、スポーツ協会事業案内、関係団体の事業案内、情報誌発行、サークル会員募集など、あらゆる情報を定期的に発信（ホームページ、フェイスブック、案内チラシ、メールマガジン、ふれあい連絡カード等）

7 地域コミュニティプログラム

地域におけるスポーツ振興、コミュニティの拠点となるよう事業連携や防犯対策、災害時の連携を図る。また、周辺の環境保全活動として、定期的な地域清掃の実施、社会貢献活動として各種募金などを実施（自衛消防訓練、選挙対応等）



基本施策 2-4 地域スポーツ指導者の育成・支援

地域スポーツ指導者のスポーツ指導に関する基礎的な知識・技能の習得を支援するとともに、体罰や暴力、その他不適切指導の根絶に向けた研修などを実施することで、スポーツ・インテグリティ（高潔性）の確保に取り組みます。

また、地域スポーツの中核的役割を担うスポーツ推進委員の資質向上を図るため、各種研修の受講等、活動の活性化に向けて取り組みます。

学校部活動の地域連携・地域移行に関しては、関係部署等による協議会等を通じて課題を整理し、地域の実情に応じた対応を図ります。

取組 指導者育成に向けた取組の充実

スポーツ医科学等の知識習得への支援や、指導者による暴力・暴言・ハラスメント³⁸を無くすためのスポーツ・インテグリティ研修の受講促進など、地域スポーツ指導者の育成に向けて取り組みます。

また、地域におけるスポーツ推進の中核的な役割を担うスポーツ推進委員の資質向上を図るとともに、スポーツ推進委員会との連携・協働の促進や、東京都スポーツ推進委員協議会の講習会の受講等、活動の活性化に向けた取組を支援します。



指導者養成講習会



スポーツ医科学サポート



スポーツ推進委員研修

<主な事業>

- スポーツ医科学サポート
- 指導者養成プログラム
- FC東京指導者講習会
- スポーツ推進委員会への支援

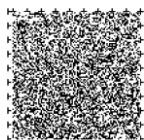
取組 スポーツ指導員派遣事業の充実

スポーツ指導員バンク（指導員の登録、派遣及び紹介）事業などを通して、地域スポーツを支える指導者の活動の機会を創出します。

<主な事業>

- スポーツ指導員派遣事業（スポーツ指導員バンク、指導員の派遣・紹介）

38 ある言動や行動によって、相手に不快な思いをさせたり、脅したり、人間としての尊厳を傷つけたりすること。パワーハラスメント、セクシャルハラスメントなど



取組 部活動地域連携・地域移行への対応

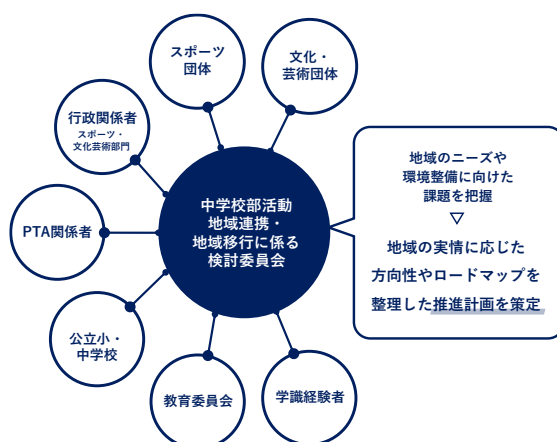
全国的な少子化を踏まえた部活動の持続可能性の確保のため、スポーツ庁の「運動部活動の地域移行に関する検討会議」において、指導者や活動場所を含めて現在の学校単位の活動から地域単位の活動に移行する提言がなされました。この提言を受けた国のガイドラインなどを踏まえ、教育委員会と連携しながら、子どもたちにとって望ましいスポーツ環境の構築を進めます。

<主な事業>

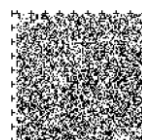
- 調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会における検討

コラム：部活動地域連携・移行への対応

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（スポ庁、文化庁）」や、「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画（東京都）」を踏まえ、部活動地域連携・地域移行に関する課題の整理、方針等の検討を行うための協議会等の立ち上げが求められています。協議会等の中では、地域のニーズや環境整備に向けた課題を把握し、地域の実情に応じた方向性やロードマップを整理した推進計画の策定が必要です。こうした状況において、市は、教育委員会と協議しながら、検討体制を構築し、具体的な取組を進めます。



部活動地域移行・地域連携に関する検討体制イメージ



基本施策 2-5 スポーツに関する情報発信の充実

より多くの市民がスポーツに関心を持ち、その活動に主体的に参加できるよう、市ホームページやSNS等の多様な媒体・手段を活用してスポーツに関する情報を分かりやすく魅力的に発信します。

取組 市ホームページ等でのスポーツ情報の充実

より多くの市民がスポーツに関心を持ち、その活動に主体的に参加しやすくなるよう、スポーツイベントの開催情報や、スポーツ施設の利用に関する情報等を、市ホームページや広報誌等を活用し、提供します。また、情報格差（デジタル・ディバイド）³⁹が極力生じることのないよう多様な媒体・手段を用いてスポーツに関する情報発信を行います。

<主な事業>

- スポーツ情報の充実
- 指定管理者におけるスポーツ情報の発信



調布市スポーツ協会が発行するスポーツ情報誌

取組 SNS等を活用した情報発信の充実

「東京都調布市スポーツインフォメーション【公式】（Xアカウント）」をはじめ、市公式ホームページやLINE等の多様な手法により、イベント情報や地域スポーツ団体の活動、トップスポーツチームに関する情報発信など、より多くの市民がスポーツ情報を入手できるよう、分かりやすく魅力的な情報発信を行います。

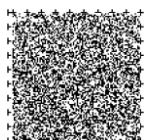
<主な事業>

- SNS等を活用した情報発信の充実（東京都調布市スポーツインフォメーション【公式】（Xアカウント）を活用した情報発信など）



調布市スポーツインフォメーション【公式】Xアカウント

39 インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差。



取組 スポーツや健康に関する普及啓発

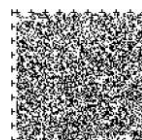
心身の健康の維持・増進や体力の向上を図り，健康で活力に満ちた長寿社会の実現につなげるため，スポーツを通じた健康づくりについて普及啓発を行います。また，健康への無関心層や運動することに積極的ではない人が身体を動かす習慣を身につけ，ウォーキングなどの気軽に取り組めるスポーツをはじめるきっかけづくりやスポーツに取り組むことができる場や機会の提供，ライフステージや世代に合わせた普及啓発に取り組みます。

<主な事業>

- 健康に関する講座の実施
- ウォーキングの推進（ウォーキングマップの啓発）



調布市
ウォーキングマップ



基本目標3 スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進

基本施策3-1 地域ゆかりのアスリートの支援

市にゆかりのあるアスリートが、“地域から応援されること”を後押しするとともに、市民が一体となって応援し、交流を図ることで、アスリートへの応援機運を醸成し、市民のスポーツへの参加を促進します。

また、ジュニアアスリートへの支援などを通じて、次代を担うスポーツ選手の発掘・支援に取り組めます。

取組 調布市ゆかりのアスリートの応援

市にゆかりのあるアスリートを「調布市応援アスリート」として認定し、市をあげて応援することで、アスリートのさらなる飛躍を期待し、市民が一体となって応援する機運を醸成します。また、世界を舞台に活躍したアスリートへは、アスリートへの表彰制度を通してその栄誉を称え、更なる活躍を後押しします。



特集動画の制作・
YouTubeでの公開
(スポーツライミング
青柳未愛選手)

<主な事業>

- 調布市応援アスリート事業
- アスリートへの表彰制度（市民スポーツ栄誉賞，市政功労賞）

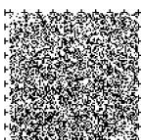
コラム：調布市応援アスリート事業とは

調布市にゆかりのあるアスリートを「調布市応援アスリート」として認定し、市をあげて応援することにより、“地域から応援されること”を後押しし、アスリートのさらなる飛躍を期待するものです。また、市民が一体となって応援し、交流を図ることで、市民のスポーツへの関心や活動意欲を高め、スポーツ振興へと繋げることを目的としています。

主な取組としては、市報や市ホームページ，公式SNSを活用した応援アスリートの紹介，大会出場情報の発信，大会結果やインタビュー等の掲載，また市が実施するイベントや講演会などに講師やゲストとして招待しています。



W杯出場時の応援横断幕
(サッカー相馬勇紀選手)



取組 次代を担うスポーツ選手の発掘・支援

市内で活動し、かつ全国大会等に出場するスポーツクラブ又は個人の活動に対し、報奨金を交付することで、次代を担うスポーツ選手の発掘・支援に取り組めます。また、調布市スポーツ協会と連携し、加盟団体のジュニアアスリートを対象とした支援を通して、競技力の向上と高い競技水準の維持・定着を目指します。

<主な事業>

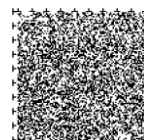
- 国際・全国スポーツ大会出場報奨金事業
- ジュニア育成地域推進事業（調布市スポーツ協会事業）



アスリートを支える取組

No.	氏名	競技	認定日
1	山崎 悠麻	パラバドミントン	2017 年 11 月 29 日
2	森園 政崇	卓球	2018 年 5 月 16 日
3	平川 怜	サッカー	2018 年 7 月 24 日
4	桃田 賢斗	バドミントン	2018 年 12 月 20 日
5	有安 諒平	パラローイング, クロスカントリースキー	2019 年 7 月 24 日
6	松田 天空	パラ水泳	2019 年 8 月 13 日
7	相馬 勇紀	サッカー	2021 年 6 月 3 日
8	青柳 未愛	スポーツクライミング	2023 年 4 月 1 日
9	野村 洋介	パラ水泳	2023 年 4 月 1 日
10	宇田 幸矢	卓球	2023 年 4 月 1 日
11	内藤 智文	スキー	2023 年 7 月 20 日
12	安達 拳汰	インラインホッケー	2023 年 10 月 1 日
13	木村 美貴	パラフェンシング	2023 年 10 月 1 日
14	小林 兼輔	テニス	2023 年 12 月 25 日
15	隈元 凌	I D バスケットボール	2023 年 12 月 25 日

図表 46 調布市応援アスリート（令和 6 年 3 月現在） ※敬称略・認定順



基本施策 3-2 トップスポーツチーム等との連携によるスポーツ振興等の推進

FC東京をはじめ、市と連携協定を締結している東芝ブレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアス、読売巨人軍や、NTT東日本バドミントン部などのトップスポーツチームと連携・協働し、トップアスリートとの交流機会やトップスポーツの観戦・応援機会を創出します。

また、トップスポーツチーム等とのパートナーシップの強化により、市民スポーツの振興はもとより、青少年の健全育成、文化、福祉、地域経済活性化等の様々な分野で連携したまちづくりに取り組みます。

取組 トップアスリートとの交流機会の創出

トップアスリートによるスポーツ教室の実施や多様なスポーツイベントにおけるトップアスリートとの交流、トップアスリートとより身近に交流できる場の創出を通じて、スポーツへの興味・関心を喚起し、スポーツをはじめのきっかけづくりを行います。また、トップアスリートとの交流を通して、次代を担う子どもたちへ、夢や希望、そして多くの学びを届けます。



FC 東京による学校訪問

<主な事業>

- トップアスリートによるスポーツ教室の実施
- 多様なスポーツイベントにおけるトップアスリートとの交流機会の創出
- トップアスリートとより身近に交流できる場の創出

取組 トップスポーツの観戦・応援機会の創出

トップスポーツチーム等との連携により、市民が身近な場所で、気軽にトップスポーツを観戦する機会を創出します。また、シティドレッシング⁴⁰や、多様な分野でのトップスポーツチームとの連携による取組などを通して、市民とトップスポーツチームとの接点を生み出すことで、市民のチームへの愛着や、チームの地域への愛着を育み、スポーツを核としたまちづくりを推進します。



ラグビーリーグワン観戦バスツアー
(秩父宮ラグビー場)

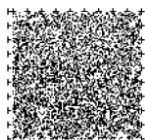


イースタン・リーグ公式戦
調布市フェスタ(読売ジャイアンツ球場)

<主な事業>

- 市民観戦事業の実施
(FC東京、東芝ブレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアス、読売巨人軍など)
- トップスポーツチームとの連携による多様な分野でのまちづくりの推進
(FC東京青赤ストリート開催など)

40 まち全体を装飾する取組のこと。



取組

トップスポーツチーム等とのパートナーシップの強化

豊富なスポーツ資源を活用したまちづくりの推進に向けては、トップスポーツチーム等との連携が不可欠です。また、近年では近隣自治体との連携や、スポーツ分野以外のステークホルダーとの協働による取組も増加しています。こうした取組を更に発展させるべく、トップスポーツチームの地域貢献活動への支援や、ステークホルダー間のコミュニケーションの円滑化、また双方 Win-Win な関係の継続など、各主体とのパートナーシップの強化に向けて取り組みます。また、トップスポーツチームとの連携については、その連携効果を高められるような取組を検討します。



FC東京による地域貢献活動
(初心者フットサル教室)



FC東京市内プロジェクト
チームの様子



NTT 東日本バドミントン部
リモート教室



ラグビー5者連携協定
締結式



読売巨人軍との
連携協定締結式



胎内ディアーズファンフェスタ

< 主な事業 >

- トップスポーツチームによる地域貢献活動への支援
- FC東京との連携に向けた市内プロジェクトチームや情報交換会、ホームタウン6市⁴¹との行政分科会の開催などによるステークホルダー間の連携の円滑化
- ラグビー3市協議会
- トップスポーツチームとの連携効果を高める取組の検討

41 FC東京のホームタウン（東京都）のうち、FC東京へ出資を行っている自治体の総称。出資自治体は、調布市をはじめ、府中市、三鷹市、小平市、西東京市、小金井市の計6自治体が名を連ねている。



基本施策 3-3 多摩地域の一大スポーツ拠点を活用したスポーツ振興等の推進

市内の東京スタジアム（味の素スタジアム）や武蔵野の森総合スポーツプラザを含むエリアは、多摩地域の一大スポーツ拠点となっており、ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 大会が開催され、大会開催を象徴する場所として「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク」と名付けられています。こうしたエリアにおいて開催される大規模スポーツイベント等の開催支援や、多様な主体と連携した地域振興の促進などを通して、市民スポーツの振興はもとより、スポーツを核としたまちのにぎわい創出や、スポーツを通じた市民の交流を促進します。

取組 大規模スポーツイベント等の開催支援

大規模スポーツイベントの誘致や開催支援、トップスポーツチームとの連携を通じ、市民が一流のプレーを観戦する機会や、市民がスポーツによる夢や希望、感動を共有する機会を創出します。また、トップスポーツチーム等の多様な主体と連携し、ホームゲームやイベント等への集客促進を支援することで、交流人口の拡大を目指します。

<主な事業>

- 大規模スポーツイベント等の開催支援
- 市民観戦事業の実施

取組 大規模スポーツイベント等と連携した地域振興の促進

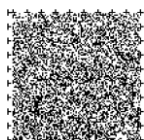
市ゆかりのアスリートや、市に拠点を置くトップスポーツチームの存在や活躍は、シビックプライド⁴²の醸成につながります。その活動や試合の開催等により、多くの人が地域に集まり、様々な消費を中心とした経済効果を生むなど、まちのにぎわい創出や、地域経済活性化、また交流人口の拡大によるコミュニティの活性化など地域振興に寄与します。

トップスポーツチームをはじめ、地域や関係団体等、多様な主体と連携しながら、スポーツによる地域振興の促進に取り組みます。

<主な事業>

- トップスポーツチームと連携した地域振興促進の取組
- 大規模スポーツイベント等との連携による取組

42 地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、そして地域社会に貢献する意識を指す言葉。



コラム：青赤ストリート

市は、ＦＣ東京をはじめ、地域住民や商工会、観光協会、スポーツ協会など地域の関係団体と連携して「調布市×ＦＣ東京まちづくり実行委員会」を設置し、市のスポーツ振興及び産業振興を目的に、官民連携の下「青赤ストリート」を開催しました。

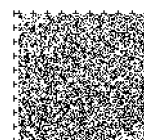
「青赤ストリート」はＦＣ東京のホームゲームに併せて開催しています。飛田給駅から味の素スタジアムまでを歩行者専用道路とし、調布市のＰＲブースやキッチンカーの出店、多くの市内事業者の出店するマルシェの展開、また、特設ステージでの市内団体等による各種パフォーマンスの実施など、多種多様な内容でファン・サポーターの方はもちろん、地域の方々にも楽しんでいただけるイベントです。

「青赤ストリート」は、ＦＣ東京と積み重ねてきた関係性なくしては実現出来なかったイベントです。市では平成 11（1999）年のＦＣ東京クラブ創設時から連携をスタートして以降、パートナーシップを強化しており、現在では年間で 40 以上の連携事業を実施しています。

市は、今後もＦＣ東京と連携し、スポーツ振興のみならず青少年の健全育成、市民の健康づくり及び地域振興等の様々な面でまちづくりを推進していきます。



第3回青赤ストリート（令和5年10月28日）



基本施策 3-4 大規模スポーツイベントのレガシーの活用

ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会を契機として構築・発展した様々なパートナーシップを更に活用・発展させ、スポーツ分野のみならず、青少年健全育成、文化、平和、福祉、地域経済活性化等、他分野間の連携を促しながら、多様な主体との連携・協働によるまちのにぎわい創出や市民の交流を促進します。

また、パラリンピックレガシーである「パラハートちょうふ」の理念に基づき、障害当事者の運動機会創出やパラスポーツの普及・啓発、東京 2025 デフリンピックを契機とした取組の推進などを通して、共生社会の充実を図ります。

取組 大規模スポーツイベントを契機とした

多様な主体とのパートナーシップの活用・発展

大規模スポーツ大会を契機とした多様な主体との連携による取組を継続・発展させ、更なるスポーツ振興へつなげます。

また、ラグビーワールドカップ 2019 のレガシーである東芝ブレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアス、調布市、府中市、三鷹市とのラグビー 5 者連携協定や、東京 2020 大会を契機とした日本車いすバスケットボール連盟との連携協定など、大規模スポーツイベントを契機とした多様な主体とのパートナーシップの活用・発展を図ります。

<主な事業>

- 東芝ブレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアス、調布市、府中市、三鷹市によるラグビー 5 者協定の活用
- ラグビーとの地域協創を推進する自治体連携協議会
(通称：自治体ワンチーム) の活用
- 東京都市町村ポッチャ大会の継続開催
- 東京 2020 オリンピック自転車ロードレースのレガシーの活用
- スポーツボランティアネットワーク⁴³の活用
- 日本車いすバスケットボール連盟との相互協力協定の活用
- 武蔵野の森総合スポーツプラザと連携した取組の継続

43 日本スポーツボランティアネットワーク（2023 年 3 月末解散）が培ってきた全国のスポーツボランティア推進団体のネットワークを継承・発展させるため、2023 年 4 月に設立した連絡協議会。行政や教育機関、スポーツ推進団体、プロスポーツチームなど、様々なスポーツボランティア推進団体との情報共有、連携協働を通じて、全国のスポーツボランティアの普及・発展に寄与し、スポーツボランティア文化の醸成を図ることを目的としている。



取組 他分野間連携の推進

ラグビーワールドカップ 2019, 東京 2020 大会と世界最大級のスポーツイベントが市内で開催されることを契機に、大会の準備段階から開催後にわたり長期的・継続的に享受できる有形・無形のレガシーを創出するため、調布市アクション&レガシープランに掲げた5つのテーマに基づく取組を展開しました。

各分野における取組については、大規模スポーツイベントのレガシーとして、スポーツをハブとした（「スポーツ×〇〇」）青少年の健全育成，文化，福祉，地域経済活性化等の他分野間の連携を推進することで，多様な主体との連携・協働によるまちのにぎわい創出や市民の交流促進に取り組みます。



（左）東芝ブレイブルーパス東京と連携した障害者余暇活動支援事業（ほりで〜ぶらん）（スポーツ×福祉）
（右）ビッグハートプロジェクト⁴⁴（スポーツ×文化）



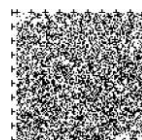
（左）ピースメッセンジャージュニア⁴⁵の取組（スポーツ×平和）
（右）読売ジャイアンツ現役選手の調布市広報大使への就任（スポーツ×まちづくり）

< 主な事業 >

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ● スポーツ×福祉 | ● スポーツ×産業・観光振興 |
| ● スポーツ×文化・国際交流・平和 | ● スポーツ×教育・青少年の健全育成 |
| ● スポーツ×まちづくり | ● など |

44 共生社会の大切さをアートの方で発信する取組のこと。平成 29 年度から実施している「パラアート展」の応援企画として、「バラハートちょうふ」にちなみ、カラフルなガムテープを使って手のひらサイズのハートをつくり、約 1 万 1800 枚のハートを横 5 メートル、縦 10 メートルのシートに貼り合わせ、1 枚の大型アート作品を製作。

45 次世代を担う子どもたちに戦争の悲惨さや平和への大切さについて肌で学ぶ機会を設け、その成果を広く市民へ還元することを目指す事業の 1 つとして実施。F C 東京と連携し、市内の小学生を夏のアウェイゲーム開催にあわせて「ピースメッセンジャージュニア」として派遣。各地に遺る戦跡巡りなどの平和学習を行い、その成果を市主催イベントなどで活動報告として市民に還元する取組。



取組 パラリンピックレガシーである「パラハートちょうふ」の取組推進

東京 2020 大会の大会ビジョンには、「多様性と調和」という基本コンセプトが掲げられました。市は、大会開催を契機として、共生社会の重要性をこれまで以上に発信するため、「パラハートちょうふ」を掲げながら様々な分野で取組を展開しています。

この「パラハートちょうふ」には、「市内外の多くの方々が障害に対する理解を深め、一人一人が寄り添い、手を取り合って暮らせる共生社会を充実させたい」という思いを込めて取組を展開してきました。市は、この考え方を更に発展させ、すべての人が障害の有無、国籍、性別などによって分け隔てられることなく、一人一人の個性が尊重され暮らしやすいまちを目指します。

スポーツ分野においては、障害当事者の運動機会創出や、パラスポーツの普及・啓発、デフリンピックを契機とした取組の推進等を通して、共生社会の充実を図ります。

パラハート
ちょうふ

つなげよう、ひろげよう、
共に生きるまち

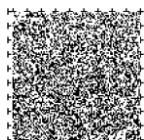
パラハートちょうふのロゴ



パラハートちょうふの
アートデザイン

<主な事業>

- 「パラハートちょうふ」の理念に基づいた取組の推進



コラム：東京都市町村ボッチャ大会

障害の有無や年齢・性別などにかかわらず、誰もが同じルールのもとで楽しむことができるボッチャ。東京都市町村ボッチャ大会は、東京 2020 大会の多摩地域での開催決定をきっかけとして、東京都市オリンピック・パラリンピック連絡協議会の提案のもと令和元（2019）年度に始まりました。

東京 2020 大会終了後も、ボッチャを広く多摩地域で実施することで、多摩地域全体における大会のレガシーとして、パラスポーツも含めたインクルーシブスポーツの普及・啓発を図っていくことを目的に、引き続き多摩地域の市町村が連携して開催しています。



東京都市町村ボッチャ大会（令和5年度）

コラム：日本車いすバスケットボール連盟との協定

市では、東京 2020 パラリンピック競技大会の車いすバスケットボールの市内開催を見据え、平成 30（2018）年度から天皇杯や三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP の開催などを通じ、一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟と相互協力関係を構築してきました。そして、令和元（2019）年 8 月、市と同連盟は車いすバスケットボールを通じた障害者スポーツの発展・振興事業、共生社会の実現に資する事業などについて相互協力に関する協定を締結しました。

東京 2020 大会開催の翌年からは、市と同連盟に競技会場となった武蔵野の森総合スポーツプラザを加えた三者の連携により、大会のレガシー継承・発展と障害者スポーツの振興、共生社会のさらなる充実を目指し「車いすバスケットボール Chofu エキシビジョンマッチ in むさプラ」を開催。国内トップクラスのチームによるエキシビジョンマッチや車いすバスケットボール体験を実施しています。



協定締結式（令和元年 8 月）



エキシビジョンマッチ

